

東北地方で大きな地震があつてから、約一年半がたった。復興にむけての支援活動が全国で行われていて、私の身近なところでも様々な活動が行われていた。去年の夏、私は、地元で行われた復興支援の活動に参加した。それは、画用紙に東北の人々へ向けて絵やメッセージを書き、それらを被災地へ送るというものであった。そのメッセージを書くときに、気づいたことがある。他の人が書いたメッセージを読み、参考にしていたのだが、ほとんどの人が、「頑張れ」じゃなく、「頑張ろう」と書いていたのだ。私はそのとき、こんなに離れているのに、一緒に頑張ろうって変じゃないか、と思つた。しかし、三月にテレビで見た、地震や、津波の映像を思い出し、「頑張ろう」でおかしくないんだ、と思い直した。たとえ遠く離れていても、実際に地震や津波を体験していなくても、その記憶は私たちの中にはつきりと残っている。テレビで津波を見て、「怖い」と思つた。報道される映像を見て、「どうしてこんなことに」と亡くなった人々のことを思つて涙を流した。だからこそ、他人事のような「頑張れ」じゃなく、「頑張ろう」なのだと思つた。「頑張ろう」には色んな気持ちが入っていると。みんながいる、一人じゃない。支えているから、一緒に頑張ろう。私たちが「頑張ろう」というメッセージに込めた思いも、被災地に届いていれば嬉しいと思う。

「頑張れ」「頑張ろう」にはもう一つ、仲間がいると思う。それは、「頑張ったね」だ。この三つの使い分けをするのは、とても難しいと思う。頭に浮かんだ一つを口にしても、もしかしたら、人を傷つけてしまうかもしれない。

私の母は看護師で、病気の話などは昔からよく聞いてきた。ある時、母は私に言った。「病気で苦しんでいる人や、つらいことがあつて困っている人に、『頑張れ』って言うてはいけないよ。」

どうして「頑張れ」と応援してはいけないのか。分からなかった私は、病気だった父に聞いた。

『「頑張れ」って、いい言葉だけど、つらくていっぱいいっぱいなときに言われると、もう頑張ってる！って言いたくなるんだ。これ以上どう頑張れって言おうんだと思つてしまう。』

と、父は言つた。そして私は、そういうときには、「頑張ったね」と言つてくれるのが一番嬉しいんだと知つた。私自身も、落ち込んだときは「頑張つて」と言われるより、「頑張ったね」と言つてもらえるほうが安心した。「頑張ったね」は、その人の今までを肯定しているからそう感じるのだと思う。肯定してもらえた、認めてくれた、無駄じゃなかったと思えるから、安心できるのだと思う。

一つの言葉でも色んな声のかけ方があつて、それぞれに思いが込められていると知つた。一つ一つの言葉の意味を大切にこれからも生活していきたいと思う。